

ビオラおよびパンジーの生育開花調査

島田有紀子・柴田昭洋

中国地方の生産農家で栽培されたビオラ24品種とパンジー5品種(表1)を各28株(径9cm)入手し、平成14年11月18日に芝生広場北花壇に定植した。11月下旬～5月上旬まで4ないし6週間毎に、草丈(地際から花を除く植物体の最も高い位置まで)、株張り、1株あたりの花数(調査時に展開している花の数)について調査し(図1)、別に冬期間中の耐寒性の程度、5月6日における植物体の倒伏程度および花色の退色程度を外観的に評価した。調査個体数は1品種あたり4個体とした。

草丈

11月25日におけるビオラ24品種の平均草丈は4.1cmで、2月23日まではほとんど伸長しなかったが、3月中旬以降徐々に伸長しはじめ、5月6日にはかなり間延びし28.4cmとなった(図2)。ビオラにおいては品種間差が大きく、5月6日に最も草丈が大きくなった品種は‘ソルベ・ブラックデュエット’で39cm、一方、草丈があまり大きくならなかった品種は‘ソルベ・オレンジデライト’で18.7cmと、両品種ともソルベシリーズでありながら、草丈に関する特性は大きく異なった。



図1. 草丈及び株張りの測定方法

今回用いたパンジー‘パティオラ’シリーズの5品種では、5月6日における草丈は23.3cmで、ビオラと比べ草丈が低かった。

株張り

11月25日におけるビオラ24品種の平均株張りは11.1cmで、2月23日までほとんど増加しなかったが、草丈と同様、3月中旬以降徐々に基部分枝の生長が旺盛となり、3月23日に16.6cm、5月6日には31.7cmとなった(図3)。パンジー‘パティオラ’シリーズと比べ、ビオラの方が全体に株張りが良く、もっとも大きくなったのはビオラ

表1. 5月6日におけるビオラ24品種およびパンジー5品種の生育状況

	品 種 名	花卉の特徴	草丈 (cm)	株張り (cm)	花数 (個)	耐寒性	倒伏	退色
ビオラ	エンジェル・ネッティッドイエロー	黄色に紫の縞	29.8	27.5	50.5	強	小	大
	エンジェル・レッド1	濃赤色	27.7	33.3	32.5	弱	中	小
	サビック・オーキッドビーコン	藤桃色の濃淡	34.0	36.0	75.5	強	大	大
	サビック・ビーコン	青紫色	34.7	36.5	80.0	弱	大	大
	ソルベ・YTT	白から青紫に変化	31.7	25.3	44.0	強	大	小
	ソルベ・アンティックシェード	赤紫色	24.8	28.0	32.5	強	小	大
	ソルベ・イエローデライト	黄色	35.0	40.3	43.5	強	小	小
	ソルベ・イエローフロスト	上花卉紫色、下花卉黄色	24.0	30.8	39.3	強	中	小
	ソルベ・オレンジデュエット	上花卉紫、下花卉オレンジ	31.5	30.0	33.0	弱	中	小
	ソルベ・オレンジデライト	オレンジ	18.8	25.8	25.5	中	大	大
	ソルベ・ココナッツ	白	21.0	30.0	65.0	中	中	大
	ソルベ・ココナッツスワール	白に青覆輪	20.8	26.8	48.5	強	大	小
	ソルベ・ココナッツデュエット	上花卉紫、下花卉白	28.5	29.8	38.0	強	大	小
	ソルベ・ブラックデュエット	上花卉濃紫、下花卉紫	39.0	33.3	40.0	強	小	小
	ソルベ・ブラックベリークリーム	濃紫に中心が白	35.3	37.0	57.5	強	中	小
	ソルベ・ブルーヘブン	青紫色	26.7	29.0	32.0	強	中	小
	ソルベ・レモンシフォン	上花卉薄い黄色、下花卉黄色	23.0	24.5	30.0	中	大	小
	ソルベ・レモンスワール	黄色に青覆輪	27.0	27.3	39.0	強	大	小
	バイオレット・ステラ	青紫色	34.3	33.0	49.0	強	小	大
	バイオレット・ニーベ	アイボリーホワイトに黄色の目	25.0	30.0	—	強	中	大
バイオレット・ルネ	薄黄色	35.3	34.5	58.5	強	小	大	
ペニー・イエロージャンプアップ	上花卉紫色、下花卉黄色	30.0	28.7	79.0	強	中	大	
ペニー・オーキッドフロスト	ローズ	33.3	38.3	47.0	弱	中	大	
ペニー・オレンジジャンプアップ	上花卉紫色、下花卉オレンジ	36.0	45.0	72.5	中	小	小	
パンジー	パティオラ・バイオレットウイズイエローフェイス	紫に中心が黄色	22.3	27.0	32.0	弱	小	大
	パティオラ・ピュアイエロー	黄色	21.5	26.0	40.5	中	小	小
	パティオラ・ピュアオレンジ	オレンジ	25.0	20.7	29.5	中	小	小
	パティオラ・ピュアライトブルー	紫	27.5	32.0	20.0	強	小	小
	パティオラ・ピュアレモン	黄色	20.0	31.0	23.5	強	小	小

前年の11月18日に15cm間隔で花壇に植え付け。各品種4株調査。

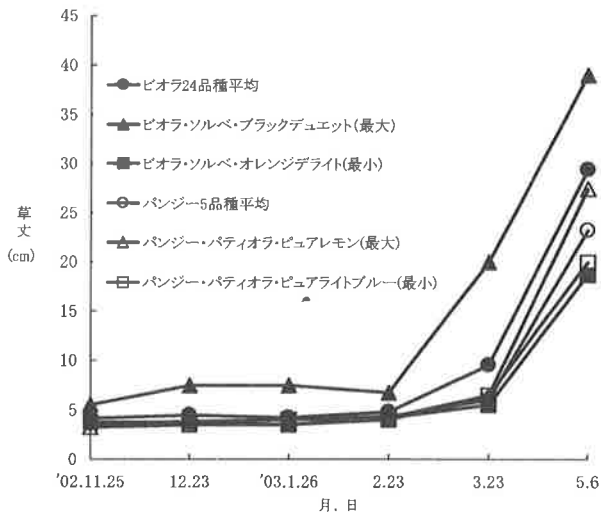


図2. ビオラおよびパンジーにおける草丈の経時的推移

‘ペニー・オレンジジャンプアップ’で、5月6日に45cmに広がった。

花数

ビオラおよびパンジーともに、冬の間も少しずつ花数を増やした(図4)。すなわち、11月25日ではビオラで1株あたり平均2.6個、パンジーでは平均0個であったが、2月23日にはそれぞれ9.2個、2.7個、3月には21.9個、8.2個、さらに5月6日には急増して48.4個、29.1個となった。5月6日に花数が最も多かったビオラは‘サブick・ピーコン’で80個、最も少なかった品種は‘ソルベ・オレンジデライト’で25.5個であった。

表1に調査した全品種について、前述の草丈、株張りおよび花数を5段階で評価するとともに、耐寒性と5月6日における倒伏および退色程度をそれぞれ3および2段階で評価した。

ビオラおよびパンジーはともに、冬の代表的な花壇苗で耐寒性があるが、ビオラ‘エンジェル・レッド1’や‘ソルベ・オレンジデュエット’などは冬期間中に枯死しないものの、花卉の傷みが大きく、観賞価値が低下した。

また、倒伏については、一部の品種を除き、草丈が高くなった品種ほど倒伏しやすい傾向にあった。退色については一定の傾向は認められなかったが、濃い色が冬に薄く、またローズ色は春にぼやけるように思われた。

考察

近年パンジー、ビオラの品種が多様になり、現在流通する品種は500を超え、毎年新品种が発表されている。本来は長日および低温要求を示すため春に開花する植物であったが、育種によりこれらの要求が小さくなった秋

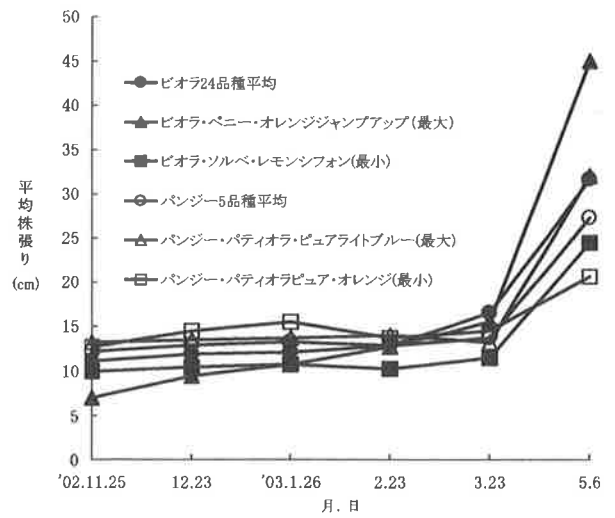


図3. ビオラおよびパンジーにおける株張りの経時的推移

咲き性の品種が増え、植物園などの施設では晩秋に定植して春までの長期間を装飾するケースが多くみられる。しかし一方で、春に気温が上昇すると、急速に徒長して倒伏し観賞価値が低下するのが両種の問題点である。よって、4月に抜き取るのが理想的であるが、植物園などの施設の場合、集客の多いゴールデンウィーク前に新しい素材と植え替えると、新しい苗が小さいために株間の土壌が目立って美しくなく、4月の植替えは望ましいとはいえない。また、春播き一年草の多くは耐寒性がないため、できれば遅霜の心配が完全なくなるゴールデンウィーク明けの植替えが好ましい。

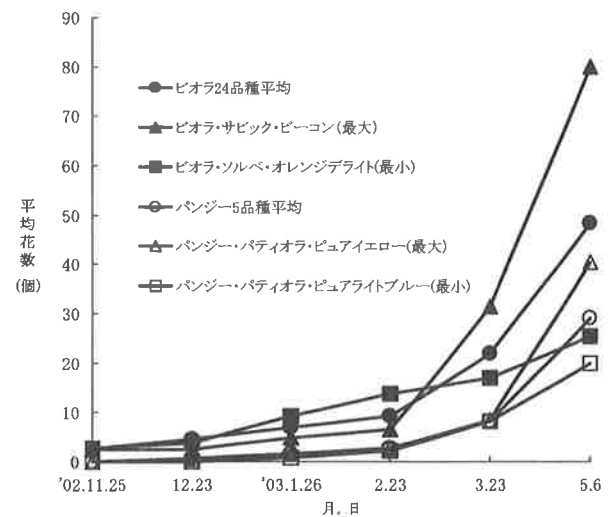


図4. ビオラおよびパンジーにおける花数の経時的推移

